

なぞかけとユーモアをいかした地域の健康増進プロジェクト



活動の目的

遊び心とユーモアをいかした心理教育的実践をとおして、地域の精神保健の維持と向上に寄与すること

連携にいたる経緯

2018年度上期は、心理学、哲学、社会学の専門家が集い、創造性とユーモアについて考えるシンポジウムを開催した。下期は、コーディネーターの村川治彦教授の支援により、ワークショップの展開と2つの講演会の開催が実現した。

活動内容

本プロジェクトは、一般市民を対象に、シンポジウム・連続講座・講演会を開催し、遊び心とユーモアをいかした心理教育的実践をとおして、「からだ・くらし・こころ」の3つの側面から参加者の健康増進にアプローチするものである。

・シンポジウム「創造性とユーモア」

【講演1】「ユーモアの哲学」：森下 伸也(関西大学人間健康学部教授)

【講演2】「心臓をめぐる笑い～デカルト『情念論』に至る心臓の構造、ブネウマ学説」
：但馬 亨氏(四日市大学関孝和数学研究所研究員)

【講演3】「芸術・ユーモア・創造性」：渡邊 太氏(鳥取短期大学国際文化交流学科准教授)

・ワークショップ『秋の市民向け講座：なぞかけフォーカシングをいかした地域の健康増進実践の可能性』

講 師：岡村 心平(関西大学非常勤講師・臨床心理士)

・講演会1『笑いと身体を教養する』

講 師：小室 弘毅(関西大学人間健康学部准教授)

・講演会2『情と笑いの心理学』

講 師：佐藤 浩氏(臨床心理士・元読売新聞記者)



活動の成果

- 遊び心とユーモアをキーワードに異なる領域の専門家が集い「からだ・くらし・こころ」の3つの側面から参加者の健康増進にアプローチすることを目的にバラエティ豊かなイベントを開催し、多くの市民のみなさまにご参加いただいて、好評を得ることができた
- 豊かで健やかな日々の暮らしの中にある遊び心やユーモアについて、芸術や医学などの多彩な話題をとおして、また、実践や具体例をとおして、理解を深める機会を提供することができた
- シンポジウムの企画者と講演者の書き下ろしによる『創造性と不調和：近代医学とユーモア』を発刊した

今後の課題・目標

今後は、参加者から寄せられた「各テーマをより詳しく知りたい」という声に応える機会を作りたい

教員紹介



■人間健康学部 准教授

森田 亜矢子
Ayako Morita



■人間健康学部 教授

村川治彦
Haruhiko Murakawa



■人間健康学部 教授

森下伸也
Shinya Morishita



■人間健康学部 准教授

小室弘毅
Hiroki Komuro

1952年鳥取県生まれ。長崎大学、金城学院大学をへて現職。専攻は社会学、ユーモア学。日本笑い学会会長。著書に『ユーモアの社会学』『もっと笑うためのユーモア学入門』『逆説思考』など。

専門は、教育人間学、教育方法学、教養論、身体論、ソマティック心理学など。身心未分の「からだ」を人間の学びと成長の要と捉え、ホリスティックな視点で「脳に落ちる」学びのあり方を探求している。ヨガ歴20年、ヨガ指導歴15年のキャリアももつ。



3 すべての人に
健康と福祉を



4 貨物の高い教育を
みんなに



8 働きがいも
経済成長も

10 人々の不平等
をなくそう

11 住み続けられる
まちづくりを

17 パートナーシップで
目標を達成しよう